

2002年度を迎えるにあたって

阪 田 蓉 子

明治大学に司書・司書教諭課程が設置され、2年たちました。兼任講師および他の資格課程の先生方、事務を支えてくださっているスタッフの方々、大学内外の図書館ならびに多くの関係者の方々のご支援とご協力により、おかげさまで、少しずつではありますが、形が整ってまいりました。

さて、本号（第2号）では、兼任講師のお二人の先生方にご執筆いただきました。今後とも兼任講師の先生方には、順次、ご執筆いただきたいと願っています。

2002年度から兼任講師の先生のお顔ぶれが少し変わります。そこで今回は司書教諭課程の高梨先生から、お別れのことばを頂戴し、新しく「学習指導と学校図書館」を教えてくださいと米谷茂則先生には、本学のご卒業であることもあって、後輩に対する抱負を述べていただきました。

司書課程では新たに「図書館資料論」を斎藤泰則先生（玉川大学）が、「資料組織演習」は、渡部満彦先生（大妻女子大学）と本学図書館（駿河台）の高橋美子先生がご担当くださることになりました。

初年度から継続してお教えいただいている諸先生方に加えて、このたびも力量ある先生方をお迎えすることができて、大変嬉しく思っています。

司書課程の「図書館学総論」では、障害者サービスの専門家である河村宏氏（財団法人日本障害者リハビリテーション協会、情報センター長）に、コンピュータの機能を最大限に活用した情報サービスの現況を伺いました。

視覚障害者の方には、音声での説明、聴覚障害の方には画面上での拡大も含めた文字表示などすべての人に情報を提供するために、様々な工夫がなされている現況を知ることができました。加えてわが国では10年後には人口の25%が高齢者となる時代を控え、情報入手に際して障害を持つ人口が増える状況にあり、情報提供サービスがますます重要となることを再認識する機会となりました。

司書教諭課程では、昨年に引き続き、佐藤先生の文章にもご紹介のあるシャンティ国際ボランティア会（社団法人）の事務局次長兼海外事業・企画調査課長の三宅隆史においていただき、つい最近まで活動なさっていたラオスの人々のための難民キャンプにおける図書館活動についてご報告を伺いました。ビデオで、子供たちのあたかも活字に飢えているかのようなむさぼるような表情と輝く瞳を目にして、教育の原点と図書館の役割を考えさせられる感動のひとつときをもちました。

お二人には、ご多忙の中をわざわざお出かけいただき、そのうえ、1部と2部の授業の間がかなりあったため、1日に2度もおいでいただくなど、大変お世話になりました。あらためて誌面を借りて、お礼を申しあげたいと思います。

2001年度は、司書課程では演習科目が開始され、また図書館特論（図書館実習）も始まりました。ご多忙のなかを実習生を受け入れてくださった各図書館とご担当の方々には、心からお礼を申しあげます。

ことに実習生のたつての希望で、ひとは、

農学部農芸化学専攻ということから、自然科学系の専門図書館である神奈川県立川崎図書館に、また趣味が高じて音楽の専門図書館での実習を望み、その願いをかなえてくださった東京文化会館音楽資料室にと、この2館にはご無理をお願いいたしました。東京都のこの音楽資料室には、今後専任の司書をおかないという話も耳にしています。実習生の受け入れも最初で最後になるのではとの危惧も抱えています。

東京都立多摩図書館の今後の動きも気になるところです。今回実習生を受け入れていただいた各図書館では、それぞれにさまざまな問題を抱えておられ、図書館が変革の時を迎えていることをひしひしと感じました。それにもまして、そのような状況のなかで、力一杯、必死で利用者のために働いておられる様子を目の当たりにして、実習生には通常の授業では肌で感じるのが難しい「ライブラリアンシップ」を感得することができたのではないのでしょうか。その点においても実習館とそれぞれご指導いただいた方々に重ねて感謝する次第です。

実習生のなかには、告白にもあるとおり、遅刻者や体調を崩した学生もいましたが、おおむね、暑さと眠気と戦いつつ、なかには、図書館へ到る道のりにいた蚊の群れとの苦闘もありで、それぞれにいろいろあったようですが、みな真剣に実習に取り組んだ様子です。他大学の実習生と一緒に受けさせていただ

たところもあるのですが、実習に関しては、本学が4年生以上の受講になっているため、他大学の実習生よりも学年が上だということもあったせいか、リーダー的な役割を担った様子で、実習館からの評価もよく、実習初年度を無事に終えることができ、非常に安堵しています。これについては「実習に際しての心構え」ということで、明治大学卒業生の二見廣文氏（前渋谷区立笹塚図書館長）および大野友和氏（本学図書館庶務課長）にお話を伺えたことも功を奏したようです。

最後になりましたが、昨秋は同志社大学の図書館見学会（東京周辺）に図書館特論の受講生が飛び入り参加を許され、貴重な体験をさせていただきました。渡部信一先生、大城善盛先生には篤くお礼申しあげます。

司書教諭課程では、2001年度で2年間経過し、資格付与の態勢が整ったというところです。来年度は司書資格も完成年度を迎えます。今号も次年度の受講生の参考資料として「図書館訪問」および「学習指導案」を掲載しました。2002年度の一層充実した報告等を期待しています。

今年度も熱心な受講生が多く、司書あるいは司書教諭として働きたいとの気持ちが強い学生が多数いるだけに、かれらを誇りに思うと同時に、かれらの希望をいかに実現するか、就職へとつないでいくかというところが大きな課題です。

